

『家を建てるまで』 vol.4 (INCHの楽しい仲間たち vol.5)

大雪にも耐えたので作業を再開しています。雪を見ながら内装を進めてい最近です！（事務局）。



我が家プロジェクト、そろそろ佳境に来ています。ログ組が終わり、屋根が上がり煙突ができました。床も張り始めています。もう完全に「家」として見られるようになりました。各週末、足元が悪い中来てくれているログチームの皆さんに感謝感謝です！

今までは家を建てるのがこんなにも手間が掛かるとは思っていませんでした。自分たちでやってみて初めて知ることが沢山あります。でも、これは決して一般的じゃない。普通ならハウスメーカーに依頼して「建ててもらおう」んですよね。そこにはベテランの大工さんや職人さんがいて、せーの！で建てるのでしょう。その仕事っぷりは見事なんだろうな。でも、施主はその何%を見られるのか。家を建てていて思ったことは、見えないところこそ、手間が掛かっているということ。それを知ってしまった今、我が家が出来上がるのが楽しみでならないです！きっと携わってくれている人はどんな形であれ我が家に愛着を持ってきている。温泉でご飯を食べていると、足場の外れていない我が家が見えます。こんなに愛されちゃって、ねえ？ ドカ雪が降ってから約一ヶ月、春はそこまで来てるぞー。早くお引越したいぞー。そんな訳で、皆さまいつでも遊びに来てね！それで、愛おしい我が家を見て行ってください！！（はるこ）

先週は、天井をほぼ仕上げてもらい、床張りの作業に入りました。床が終わったら、壁を立てていきます。まだ玄関は入っていないけど（材料は届いている）、住む気になったら住めちゃいそうな感じです。希望のとおり、壁で仕切った部屋を設けないようにしています。トイレとお風呂ぐらいかな？仕切りが入るのは。

地鎮祭は行ったのですが、上棟式をしていませんでした。輸入ログハウスなので、「材料が暴れて狂いしたら大変。（ログを）積むのが最優先」積んだ後は、「何とか屋根まで張らないと、濡れてしまう」・・・ということで作業を最優先させてもらいました。

年が明けた1月18日（大安）を予定して、準備を進めました。準備の中で、いろいろな方々に相談していくうちに、餅をまいたりせずに関係者だけで地味にやるべえということになり、関係者の方々と親に来てもらい、途中段階の家の中で行いました。小菅の伝統的な上棟式ではないけれど・・・まあよいということ。



<棟梁の若狭さんからご挨拶いただきました>
大雪の2日後に、家を見に行き行って漬れていなくて、ホッとしました。

キャンプ場のログハウスからはじまってもう5年以上。自分自身は作業はやモノづくりは苦手で、一緒にやってくれる方々のおかげで家が建つので感謝です。

それなのに、土地を探し、整地、基礎、組み立て、業者さんとのやり取りなど、全てのことに関わりながら家づくりができるなんて、きっとこんなに贅沢なことはないんだろうな～、と思っています。（くろさわ）

